

令和 8 年 3 月 12 日

瀬戸内市議会議長
小野田 光 様

瀬戸内市議会議員 広野 真智子

政務活動費研修報告書

政務活動費を使用して、次のとおり研修活動をしましたので、その結果を報告します。

期間	令和 7 年 9 月 13 日
研修会名	日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」 認定 10 周年記念シンポジウム
開催場所	いつきのみや歴史体験館（三重県多気郡明和町斎宮 3049-25）
研修目的・ 内容	1. 基調講演①：「日本遺産のストーリーと持続可能な観光地域づくり」 講師：丁野 朗 /（公社）日本観光振興協会総合研究所顧問 2. 基調講演②：日本遺産【祈る皇女斎王のみやこ 斎宮】10年のあゆみ 講師：中野敦夫 /（同）アドバンスカンパニー 代表社員 3. パネルディスカッション：「日本遺産【祈る皇女斎王のみやこ 斎宮】の未来予想図」 コーディネーター：千田良仁（一社）明和観光商社
所感	1. 基調講演：「日本遺産のストーリーと持続可能な観光地域づくり」 講師：丁野朗 氏 日本観光振興協会総合研究所顧問の丁野氏より、斎宮が日本遺産認定に至った経緯の説明。そして、現在の斎宮は日本遺産の総括評価にて「条件付き認定」となっている。 条件付き認定になってしまった経緯は、地元の斎宮の住民が地元の魅力を感じなくなっている人が多い。地元からの盛り上がりには欠けるという要素が主な原因。 斎宮の強みは、唯一無二の物語である。



日本遺産物語を活かすには何が必要か。

- ① 物語を体感できる観光・景観整備
- ② 物語を活かす戦略の明確化
- ③ 日本遺産推進のための組織整備
- ④ 担う人を発掘する・育てる
- ⑤ 事業による経済効果
- ⑥ 学校や地域における普及活動
- ⑦ 情報を編集し発信する

日本遺産の活用に係るいくつかの論点は、行政による強い誘導・支援である。地域全体として、どんな地域になりたいかの明確なビジョンが必要である。もちろん、その中で民間の活力は重要である。

これらの論点を、どのように受け止めて、克服することが出来るのか、考えていきたい。

2. 基調講演②：日本遺産【祈る皇女齋王のみやこ 齋宮】10年のあゆみ

講師：中野敦夫 氏

史跡指定（S54年）～H21年までの取り組みと課題を伺う。

齋宮の認知度を向上する取り組み

- ① めい姫（明和町マスコットキャラクター）、テーマソング等の作成、PR
- ② SNSの更新
- ③ FM三重の出演
- ④ 観光ガイドブック作成
- ⑤ 観光大使によるPR
- ⑥ 内宮、外宮への啓発活動 等

日本遺産登録にあたり、ストーリーのテーマを作る「祈る皇女齋王のみやこ 齋宮」

このテーマのねらいは、女性、祈りの世界、雅やかな暮らし。認定効果は認知度の向上（情報発信）、観光客の誘客増員、活性化につながる事業に国の支援、各団体の連帯、学校教育との連携、町内の文化遺産の認知と保護。

そのほかにも、地域と連携し、気球フライト、さいくう平安の杜正殿前でのコンサート等、地域に根差した活動を行ってきた。今後も、伊勢神宮や関連のある他の市町と連携して、進めていきたい。

3. パネルディスカッション

テーマ「日本遺産【祈る皇女齋王のみやこ 齋宮】未来予想図」

コーディネーター：千田良仁 氏

パネリスト：中野敦夫氏、丁野朗氏、伊藤文彦氏（齋宮歴史博物館職員）、千種清美氏（明和町特別観光大使）、
下村由美子氏（明和町長）

これからの日本遺産としての齋宮をどう盛り上げていくかを話合う。

今後もさらに隣町伊勢市にある伊勢神宮のとのコラボ企画。京都や滋賀等、齋王の歴史に係のある市町と連携しての企画等を進めていく事が重要である。

全体の感想

日本遺産としての観光の在り方、どうやって地元の方々と一緒に、観光事業を盛り上げていくか、そして経済効果につなげていくか…等、とても観光について戦略的に考える視点が興味深かった。丁野朗氏にもご挨拶させていただき、牛窓の素晴らしさをお伺いすることができた。

初代齋王の大伯皇女は、瀬戸内市牛窓町の海でお産まれになった話もあり、瀬戸内市からの参加をととても喜んでいただけた。

町長の下村様を始め、参加されていた町議会議員の皆さまと、ご挨拶をさせていただき、関連市町として瀬戸内市とも何かコラボ企画ができないか？等の話をする。下村町長より「是非とも、瀬戸内市長と一緒に視察にお越しく下さい」とのお言葉をいただく。

毎年6月の第一日曜日は「齋王まつり」という、初代齋王の大伯皇女をモデルに、地元で盛大にお祭りを開催している。将来、瀬戸内市も何かの形で、三重県明和町齋宮との観光事業のコラボ企画を作っていきたい。